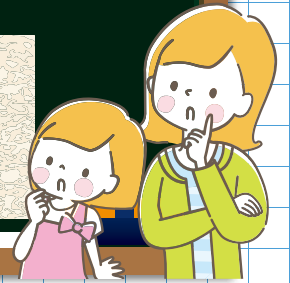
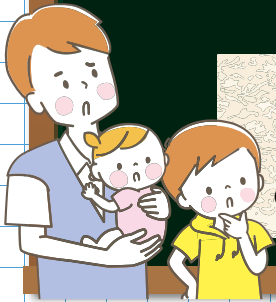


みんなで考えよう

白岡市のこれからの学校について

～ 学校の現状と課題をお伝えします ～

日本の総人口は平成20年をピークに減少に転じ、次代を担う年少人口(0～14歳)の減少により全国的に学校の小規模化が加速しています。文部科学省が定める標準規模(全校12～18学級)を下回る「小規模校」の急増は、いま教育現場が直面している大きな課題です。



白岡市立学校適正規模・適正配置等計画

市でも少子化の波は着実に押し寄せ、学校施設の老朽化も深刻な状況となっています。こうした背景から、令和8年度末までに「**白岡市立学校適正規模・適正配置等計画**」の策定を進めています。

令和7年度は、これからの学校のあり方を示す「将来ビジョン」をまとめました。令和8年度はこのビジョンを具現化するため、適正規模・適正配置に関する計画の策定に取り組みます。

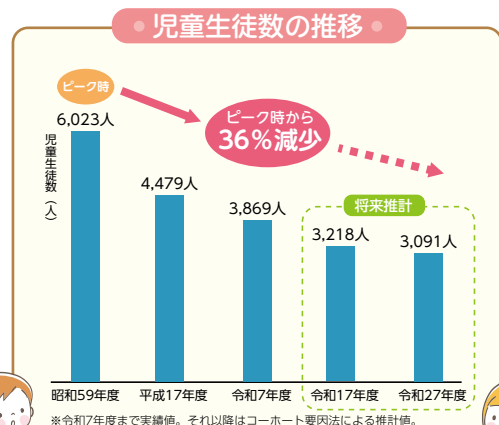
学校は単に知識を習得する場ではありません。集団の中で思考力や判断力、社会性を育む、こどもたちにとってかけがえない成長の場です。これからの未来を創るこどもたちが、より良い環境で学び、新たな道を切り拓く力を育めるよう、最適な学校のあり方をともに考えていきましょう。



こどもの減少を見据えた学びの環境づくり

現在、市内には小学校5校、中学校4校があります。人口減少に伴い、市内の児童生徒数は昭和59年度のピーク時(6,023人)から**約36%減少**し、現在は3,869人となっています。地域による差は見られますが、今後市全体で減少が続き、更なる小規模化が進行すると予測されています。

文部科学省の指針でも、こどもたちが多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨する環境を整えるためには、一定の集団規模が確保されていることが望ましいとされています。こどもたちにとってより良い学びの環境を整えることで、将来にわたって教育の質を維持・向上させていく必要があります。



校舎の安全確保と、新しい学びの場

校舎の安全確保と維持管理も大きな課題です。

市の学校施設は、旧耐震基準で建築された建物の延床面積が全体の約60%を占めています。なかには築60年を超える校舎もあり、こどもたちの安全を将来にわたって守り続けるための**学校施設の整備**が求められています。

また、単に建物を直すだけでなく、ICT教育の推進や多様な学習空間の充実など、これからの時代にふさわしい**教育環境の整備**を併せて進めていく必要があります。

新時代の学び舎



「将来ビジョン」から具体的な「計画」の策定へ

市では、「白岡市立学校適正規模・適正配置審議会」を設置しています。

この審議会は、教育委員会からの諮問(意見を求められること)に応じ、これからの市の教育基盤となる学校の規模や配置などについて調査・審議する組織です。委員は、市民や保護者、小中学校の校長、学識経験者で構成され、それぞれの立場から「これからの学校のあり方」について活発な議論を重ねています。現在は、昨年度まとめた「将来ビジョン」に基づき、最適な環境を整えるための具体的な計画づくりを進めています。

今後も皆様のご理解をいただきながら、こどもたちの笑顔が輝く未来の教育環境を形にしていきます。

次号で市が目指すこれからの学校の方向性をお伝えします

未来の教育環境



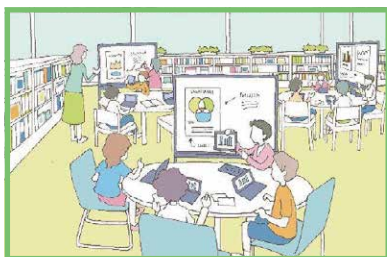
新しい時代の学びを実現するイメージ



■ 1人1台端末環境などに対応したゆとりのある教室



■ 多目的スペースの活用による多様な学習活動



■ 学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ(共有の学習空間)」



■ 地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間



市公式ホームページ

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

